

長崎県県央保健所感染症発生動向調査速報

(第 30 週週報)

第 30 週 (2026 年 7 月 20 日 (月) ~ 2026 年 7 月 26 日 (日)) ※情報は 2026 年 7 月 30 日作成の内容です。

★トピックス：手足口病に注意しましょう。

県央保健所管内では、第 23 週から手足口病が**警報レベル**となっており、第 30 週の報告数は「5.20」でした。手足口病は、四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。乳幼児での発症が多く、例年報告数の 9 割程度を 5 歳以下が占めますが、大人でも感染する可能性があります。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。主な原因ウイルスとしてコクサッキーウイルス A6(CV-A6)、CV-A16、エンテロウイルス 71 型(EV-A71)が知られています。基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。例年 6~7 月に流行する傾向にあります。今後も手洗いを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

★トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう。

県央保健所管内では腸管出血性大腸菌感染症が第 26 週に 9 件、第 27 週に 6 件、そして第 30 週に 1 件報告されています。

本疾患は、O157 や O26 をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2 日から 9 日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約 6% から 7% が、溶血性尿毒症症候群 (HUS) や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。県内の過去 5 年の発生状況をみると、5 月から報告数の増加が見られています。

帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗い、肉類を調理する際は十分に加熱しましょう。また、生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用後すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう。

下痢症状のあるときは入浴を控え、シャワー浴または最後に入浴するようにしてください。症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

○定点把握疾患（県央保健所） ※（―）は、報告なしです。

疾患名	前週 (29 週)	今週 (30 週)	備考	疾患名	前週 (29 週)	今週 (30 週)	備考
インフルエンザ	0.63	0.63		ヘルパンギーナ	1.40	0.20	
新型コロナウイルス感染症	7.63	5.38		流行性耳下腺炎	―	―	
RS ウイルス感染症	0.80	1.40		急性出血性結膜炎	―	―	
咽頭結膜熱	0.80	0.20		流行性角結膜炎	―	―	
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.80	1.20		細菌性髄膜炎	―	―	
感染性胃腸炎	3.00	1.40		無菌性髄膜炎	―	―	
水痘	<u>1.00</u>	0.60		マイコプラズマ肺炎	―	―	
手足口病	<u>8.40</u>	<u>5.20</u>	警報	クラミジア肺炎	―	―	
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.40	0.60		感染性胃腸炎（ロタウイルス）	―	―	
突発性発しん	0.20	―		急性呼吸器感染症（ARI）	51.88	49.75	

○県央保健所管内の 1~5 類感染症の発生状況（結核を除く）30 週

3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染 1 件